



父なるドン河に生まれ育った
誇り高いコサツクは、愛し、闘い
そして激動の時代を生きぬいた——
文豪ショーロホフが15年の歳月をかけて
完成させた雄大な文芸ロマン！

Тихий Дон
静かなるドン

〈カラー作品〉
ソビエト映画
原作 ■ ミハイル・ショーロホフ
河出書房新社刊

ショーロホフ生誕70年 ■ 記念公開

エリナ・ビストリスカヤ
ビョートル・クレボフ
ジナイダ・キリエンコ
監督 ■ セルゲイ・グラシーモフ
撮影 ■ ウラジミール・ラボロト
日本ヘラルド映画 herald

★ロシア版「風と共に去りぬ」

ロシアの文豪ミハイル・アレクサンドロヴィチ・ショーロホフの代表作「静かなるドン」の映画化作品である。

ショーロホフ21才の時(1926年)に執筆され15年の歳月を費やして書き上げられた文字通りの大河小説であり、質・量ともトルストイの「戦争と平和」に匹敵し、ロシア文学の最高峰をいく小説である。

ロシアにおいて国民文学的存在であることは言うに及ばず、世界20数ヶ国語に翻訳されわが国でも20世紀ロシア文学の中ではとび抜けて広い読者層を獲得してロング・セラーを誇っている。さながらロシア版「風と共に去りぬ」とも言うべきロマンとスケールにあふれている。

★激動のストーリー

20世紀初頭のロシアは激動の嵐にまつまっていた。1914年、ロシアはドイツとオーストリアに宣戦布告し第1次世界大戦に突入した。国内では長期の戦乱のため、民衆の間に不穏な雰囲気、革命の空気が胎動はじめていた。1917年の2月革命で帝政が崩壊し、風雲急を告げて革命の嵐が吹きすさび、革命軍と反革命軍の血みどろの闘争がくりひろげられた。

ドン河流域に営々として生活を営むコサックたちにも悲劇的な運命が重くのしかかる。昨日の朋友は今日の敵——革命に加わる者、反革命軍に加わり故郷を死守しようとする者、そして故郷を去る者というふうにはコサックたちは愛と憎しみにひき裂かれていく。

若きドン・コサック、グリゴリー・パンテレーヴィイチも強靱な生命力と意志、そしてみずみずしい情熱で悲劇的な運命に抗していくが、渦まく歴史の流れにまきこまれていく絶望と挫折の果てに、幾たびか父を、母を、子を、そして故郷を捨てようとするが、グリゴリーをあくまでひきつけるのは美しいコサック女アクシーニヤとの宿命的な愛であった。

1917年の10月にロシア革命が起き、ソヴェエト政権が立ち立てられ、革命軍の攻撃は熾烈をきわめた。いよいよコサックたちは住みなれた土地を離れなければならなかった。グリゴリーもアクシーニヤと共に馬を駆って故郷を出走したがアクシーニヤは赤軍兵の銃弾に倒れる。グリゴリーにはもは

原 作……………ミハイル・ショーロホフ (河出書房新社刊)

監 督 }……………セルゲイ・ゲラーシモフ

脚 本 }……………コリ・レヴィテン

音 楽……………

＜キャスト＞

グリゴリー……………ピョートル・グレボフ

アクシーニヤ……………エリナ・ビストリスカヤ

パンテレイ……………ダニロ・イルチェンコ

ナターリヤ……………ジナイダ・キリエ

＜ショールホフ生誕70年■記念公開＞

静かなるドン

■カラー作品■ソビエト映画

■モスクワ・ゴリキ・プロ作品■1957年度作品/日本ヘラルド映画



や失うものは何もなかった。ふとグリゴリーの胸をつきあげるものは、かつて愛した人々がいたドンの地への望郷の想いだっただけ。故郷の地をしっかりと踏むグリゴリーの視野に映ったのは、昔と変わることなく豊かな水をたたえて悠々と流れる静かなるドン河の流れだった。

★新たな感動を呼ぶ総集篇！

渦まく動乱の中にくりひろげられるドン・コサックたちの悲劇的な運命は、さながら民族の一大叙事詩を見るがごとくである。

このショールホフの大長編小説はソ連の国家的な援助により、1957年にソヴェエト革命40周年記念作品として製作されたが、日本では1958年の8月と11月に、前編にあたる黎明編と後編にあたる憂愁編があいついで公開され、圧倒的な好評のうちに迎えられた。

今回の公開は18年振り、前・後編合せて6時間の超大作を、ロシア革命の動乱の中を一途につらぬくグリゴリーとアクシーニヤの苦烈な愛に焦点を合わせて編集した総集編である。

★ソビエトの誇る最高の演技陣！

若きドン・コサック、グリゴリーには、ロシアの代表的な俳優の一人であるピョートル・グレボフが扮している。モスクワ演劇場に籍を置き、これまで映画には「夢想家」、「汽車は東へ行く」、「ダンテ街の殺人」に出演している。野武士的な力強い風貌は、グリゴリー役にはうってつけである。

アクシーニヤには、キエフの演劇学校を出たエリナ・ビストリスカヤが扮し、一途な愛に生きる素朴なコサック女を好演している。

監督は、「若き親衛隊」で戦後のソ連映画の秀れた水準を日本に紹介したセルゲイ・ゲラーシモフで、最高ソヴェエト代議員の肩書をもつソ連映画界の屈指の大監督である。

この映画は、ゲラーシモフの総指揮の下にソ連映画界の全機能を傾けて、極寒、極暑の四季を通して撮影された。

高、ショーロホフは、1905年5月11日にヴェシンスカヤというコサック地方に生まれ昨年生誕70年を迎え、ロシア文学界の最長老として国家的祝賀会が催された。この「静かなるドン」総集編はショーロホフ生誕70年を記念しての公開である。

上映時間(2時間59分)

●10月2日(土)よりロードショー

新宿武蔵野館

(354) 5670